



Kringle
Pharma

平成 19 年 11 月 20 日

各 位

クリングルファーマ株式会社と日本全薬工業株式会社は、HGFからなる動物用医薬品の早期実用化に向けて業務提携することに合意いたしました。

クリングルファーマ株式会社（本社：大阪府豊中市、代表取締役社長：岩谷邦夫、以下「クリングルファーマ」）は、動物用医薬品の研究開発及び製造販売を行っている日本全薬工業株式会社（本社：福島県郡山市、代表取締役社長：福井邦顕、以下「ゼノアック」）と、HGF からなる動物用医薬品の早期実用化に向けて業務提携することに合意いたしました。

クリングルファーマとゼノアックは、平成 16 年 12 月に共同研究契約およびライセンス契約（あわせて以下「平成 16 年契約」）を締結し、動物由来の肝細胞増殖因子（Hepatocyte Growth Factor: HGF）を動物用腎疾患治療薬として実用化するために共同で研究開発を進めてまいりました。

この度の業務提携は、HGF を含有する動物用医薬品を腎疾患のみならず他の疾患領域にまで拡大して研究開発を継続するためのものです。本業務提携のために、平成 16 年契約を改定し、新規の共同研究契約およびライセンス契約（あわせて以下「新規契約」）を締結いたします。また、本業務提携をより強固なものにするため、クリングルファーマはゼノアックより出資を受けることになりました。

新規契約のもと、クリングルファーマはゼノアックに対して、HGF からなる動物用医薬品（腎疾患に加えて他の疾患領域も含む）の研究開発に必要な特許の実施権、およびノウハウや関連情報の使用权を独占的に与えます。同時に、動物用組換え HGF 蛋白質の商業生産体制の構築を共同で行います。

クリングルファーマの代表取締役社長岩谷邦夫は、次のようにコメントしています。「今回、動物薬業界で最大手のゼノアックと出資を含む業務提携に合意できたことを大変喜ばしく思います。これまで以上に緊密な関係を構築することにより、HGF 動物用医薬品を早期に実用化できると期待しています。」

一方、ゼノアックの代表取締役社長福井邦顕は、「この度のクリングルファーマとの業務提携に大いに期待しています。クリングルファーマは、組換え HGF 蛋白質の研究開発分野でリーディングカンパニーであり、その高い技術力とゼノアックの動物薬開発力のシナジーにより HGF 動物用医薬品の開発をさらに加速できると信じています。」と述べております。



Kringle Pharma

クリングルファーマについて：

クリングルファーマは、大阪大学発バイオベンチャーとして2001年12月に設立されました。大阪大学大学院医学系研究科の中村敏一教授が発見したHGF、および同教授と金沢大学がん研究所の松本邦夫教授が発見したNK4の医薬品開発を通じ、新規のバイオ医薬品の開発に注力しています。HGFは生体において内因性の修復因子として重要な役割を担っており、再生治療薬として大きな可能性を秘めています。また、NK4は癌の成長のみならず浸潤・転移を抑制し、様々な種類の癌に優れた制癌効果を発揮することが期待されています。より詳細な情報は、弊社ウェブサイト (www.kringle-pharma.com) をご覧ください。

ゼノアックについて：

ゼノアック（日本全薬工業株式会社）は動物用医薬品の研究、開発、製造、輸入、販売までを一貫して行う動物用医薬品分野での日本のトップ企業です。動物用医薬品のGMP対応生産体制、GLP対応研究開発体制、GQP対応品質管理体制、GVP対応販売体制をそれぞれ構築しております。そして動物用医薬品業界で唯一、自社の販売拠点を全国41カ所に展開しております。国内そして世界の優良企業とも積極的な業務提携を推進しており、強固なパートナーシップを結んでいます。牛/豚/鶏などの産業動物用から、犬/猫などのコンパニオン・アニマル用まで、およそ400種類もの製品ラインナップで、あらゆる顧客（畜産関係団体、各種畜産農家/農場、小動物病院など）のニーズに対応しております。より詳細な情報は、弊社ウェブサイト (www.zenoaq.jp) をご覧ください。

問合せ先：

安達 喜一

クリングルファーマ株式会社

取締役副社長兼事業開発部長

電話 06-6831-3330、 電子メール info@kringle-pharma.com

鈴田 靖幸

日本全薬工業株式会社

研究開発事業本部開発部

電話 024-945-2300（代表）、 電子メール info@zenoaq.jp